
好きなアニメ・ゲームキャラクターで逃走中

ソニック

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

好きなアニメ・ゲームキャラクターで逃走中

【Zコード】

N4244Y

【作者名】

ソニック

【あらすじ】

舞台はあの⼈氣テーマパークユニバーサルスタジオジャパン。ユニバーサルスタジオでこの小説を書いた作者が好きなアニメとゲームのキャラが

逃⾛中に参加する、そして誰が逃げ切れるのか。

逃走者紹介（前書き）

逃走者の紹介です

逃走者紹介

スマブラX

ルイージ

ピチ
ピチ

ワリオ

トウーンリンク

ドンキーハング

サムス・アラン

フルコ

ウルフ

ゲーム&ウォツチ

ナ ボ
ナ ボ

マルス

ピカチュウ

ルカリオ

カービイ

ネス

リュ
カ

スネーク

ソニック・ザ・ヘッジホッグ

ソニック

テイルス

ナックルズ

エミー

シャドウ

シルバー

エスピオ

ベクター

ロックマンX

エックス

ゼロ

アクセル

ドラゴンボール

孫悟空

ベジータ

トランクス（未来）

ピッコロ

孫悟飯

バー・ダック

ブロリー

パラガス

ぶよぶよ！！（20周年version）

アルル・ナジヤ

アミティ

あんどうりんご

ラフィーナ

アコール先生

シグ

クルーケ

フェーリ

レムレス

ささきまぐる

ドラゴケンタウロス

サタン

ルル

ウイッチ

シェゾ・ウイグイイ

リデル

新機動戦記ガンダムW（TV版）

ヒイロ・ヨイ

デュオ・マックスウェル

トロワ・バートン

カトル・ラバーバ・ウイナー

張五飛

絶体絶命でんじやらすじーさん
じーさん

孫

校長

ゲベ（8頭身）

ボボボー・ボボボ

ボボボ

首領パツチ

ところ天の助

デッドライジング
フランク・ウエスト

逃走者紹介（後書き）

次回本編スタート。

ゲームスタート（前書き）

わあこよこよ本編です。

ゲームスタート

午後5時00分

ユニバーサルスタジオジャパン

そこを貸切でとあるゲームが開始したその名も

逃走中

ここユニバーサルスタジオで150分間逃走を行う、

逃げ切れば賞金が貰える、ただしハンターにつかまれば賞金は0となる。

ハンターの人数は4体。

そして今参加者は4体のハンターが封印しているハンター ボックスの前にいる、そしてハンター ボックスの前にボタンがある。

そのボタンは押した1分半後にハンターが放出するボタンである。

そして今そのボタンを押す代表者がランダムで決まった、その代表者は。

デュオ「へつ？俺。」

デュオだ

そしてデュオはハンター ボックスの前にいてそのボタンを押す

デュオ「よーーし、じゃあ押すぜーー。」

デュオの声と共に他の逃走者は逃げる準備をしていた。

ポン、

デュオがボタンを押したと同時に全逃走者はハンター・ボックスから走つて逃げた。

なおハンターはさつき行つたように押して1分半後に放送出する。

逃走者はそれぞれに散つた。

デュオ「なんで俺を代表として選んだんだよ。」

何で自分を代表にしたかと思つてゐるガンダムのパイロット。

そこへ

りん♂」「あれ？ デュオ君じゃない。」

「デュオ」「よおりん♂」が、偶然に会つたな。」

「りん♂」「本当偶然だね。」

「デュオ」「ホントだな。」

「りん♂」「偶然会つたんだし一緒に行動しない？」

「デュオ」「ん一緒にか、ああ別にいいぜ。」

「りん♂」「ありがとうデュオ君。」

「デュオ、りん♂」と合流

ソニック「一緒に頑張りつぜアミティ。」

アミティ「うん」

この2人はすこい仲良しでやつぱり一緒に行動している

悟空「へへ、ワクワクすっぞ」

逃走中でワクワクしている最強の男

そして

プシュー

ドンッ！！

ボタンを押してから1分半が立ち4体のが解き放たれた。

4体のハンターはすぐさま逃走者確保へと向かう

プルルル

ヒイロ「メールか。」

エックス「ボタンを押してから1分半が立ち・・・」

アイク「4体のハンターが解き放たれた・・・」

孫「」れより逃走中を開始する。」

ゲームスタート

ゲームスタート（後書き）

感想をお願いします。

いよいよ始まつた逃走中、誰が逃げ切れるのか。

遂に始まつた逃走中

72名の逃走者の中で逃げ切れる者は誰だ。

ゼロ「ついに始まつたか。」

ベジータ「カカロツトより長く生き残つてやる。」

逃走中でもライバル視を持つサイヤ人の王子

天の助「どうかに隠れねえと。」

隠れ場所を探すところでん。

天の助「お、いい隠れ場所があつたぞ。」

そして見つけた

アクセル「せつかく逃走中に参加したんだからせめて長く生き残ら
なきやね。」

果たして彼は長く生き残れるだろ？

フランク「カメラマンの底力見せてやるぜ。」

自信満々の超人カメラマンその常人離れした体力と強靭的な精神力
卓越したサバイバル術によつてゾンビの住みかとなつたショッピングモールから無事生還を果たしたその能力は逃走中ではどう活躍するのか。

天の助「うわ、ハンターが居るよ。」

天の助が隠れているとこの近くにハンターがいた

天の助「よし、通り過ぎたな。」

ハンターが通り過ぎたと思い移動をする

そして

ハンター「...」

見つかった

天の助「やああああああああああああああああ、早速追いかけて
来た――」

天の助はスピードを上げて逃げるがハンターの足は早いそして距離は縮まつていくそして

天の助「ぎやああああああああああああああ！」

ポン

ところ天の助確保残り71人
天の助「ガーニーーン」

プルルルルル

トロワ「確保情報・・・」

シャドウ「ジュラシックパーク付近で・・・」

ドリ「「といふ天の助確保。」

ボーボボ「やつぱあいつダメ野郎だな。」

アミティ「早くも1人捕まっちゃったね。」

ソニック「ああ、しかも最初はやっぱあいつか。」

デュオ「ええ、もう早くも1人捕まっちゃったのかよ。」

りんご「うん、天の助君が確保されたみたいよ。」

デュオ「あいつか、最初に確保されそうな感じしてたしな。」

続
<

次回最初のパッショングが開始する。

part-2 (前書き)

最初の「シラヨン」が始まる

数分後

突如エリア内に映し出された7つのハンターマーク

プルルルル

ワリオ「お、メールだ。」

ファルコ「今度はなんだ。」

ヒヤロ「ミッション、ミッションが来たか・・」

ナックルズ「エリア内に的巨大ハンターマークが映し出された・・・」

「

アクセル「残り130分までにマークを消さなければ・・・」

ルル「残ったハンターマークと同じ数のハンターを放出する・・・」

「

フランク「マークは全てで7つ・・・」

カトル「マークは1から7までナンバリングされており・・・」

ルイージ「順番に消さなければならぬに急ぎたまえ、ええー? てことは7体増えれば合計11体に! !」

ミッション

ハンターマークを消去せよ

これより130分までに7つのハンターマークを消さなければ残った数と同じハンターが放出される

ただしハンターマークを消すには1から7まで表示されているマー

クの切り替えレバーを下ろさなければならぬ

ハンターマークを消さなければ最大7体のハンターが放出される

ヒイロ「任務了解。」

ゼロ「勿論行くぜーーー！」

シルバー「よし、行くかーーー！」

フランク「行くぜーーー！」

ルイージ「行ーーー！」

ワリオ「行かねえよ。」

バラガス「勿論私はいかない。」

行くか行かないかは自由だ。

デュオ「どうするつーーーはせつば行くか。」

りんご」「うん、勿論行つた方が・・・てハンターが居るよー!」

デュオ「マジかよーー！」

2人はいち早くハンターを見つけ移動をしたが

ハンター「！！」

見つかった

「デュオ「ヤベ」見つかっちゃった、」J-Jは「手に分かれるぞ!」

「うんーー。」

そして一手に分かれた、そしてハンターが標的にしたのは

りん」「嘘…」つちに狙ってきた…」「

りんごだ

「のままではりんごは捕まつてしまつ

と、その時

？？？」「うわちだ、うわちに隠れろ……」「

りんご」「えつーー？」

突如隠れ場所から声が聞こえりんごは戸惑つたが声に従いりんごは隠れた

ハンターからの視界から見失つたようだ

そしてりんごを助けた声の人物は

エックス「無事で良かった。」

エックスだ

りんご」「ヒックス！？」じゃあさつきの声はヒックスだったの。」

エックス「ああ、君がハンターに追いかけられたのを見かけたので声を出して助け出したってことになるな。」

りんご」「でもどうしてそんなことを、下手をすればエックスまで捕まるといだつたんだよ。」

エックス「俺は誰かを助けるためならハンターに見つかるのを承知で君を助けたんだ。」

りんご」「さうか、ありがとうヒックス。」

エックス「とりあえず一緒に行動しよう。」

りんご」「うん。」

りんご、ヒックスと合流

りんご」「それと友達になってくれる?」

エックス「ああ、喜んで。」

りんご「ありがとう」

そしてりんごはエックスと友達になつた

りんご「ねえ?あれハンターマークじゃない。」

エックス「ん、ほんとだしかもナンバリングは1だ。」

なんと2人は偶然ハンターマークナンバリング1の停止レバー見つけた

エックス「よし引くぞせーの」

ガシャン

ナンバリング1停止

残り6個

りんご「やつたね!」

エックス「ああ。」

残り6個停止出来るか

プルルルルルルル

五飛「メールか、ハンターマークナンバーリング1停止、早いな。」

マルス「て事は、残り6個か。」

ナンバーリング停止はメールで知らされる

マリオ「よーし俺もミッションで活躍してやるぜーーー。」

やる気満々のスーパースター

だが彼の後ろの近くに、ハンターが

まだ彼は後ろにいることを気づいていないそして、

ハンター「！！！」

見つかつた

マリオ「ん、うわヤベエハンターだー！」

マリオが逃げた先に

じーさん「あ、ハンターに追われてる。」

じーさんがいた、そしてじーさんは壁に隠れた。

マリオ「ヤベエ！ 行き止まりだーー！」

マリオが逃げた先は行き止まりだ。

ポン

マリオ確保残り70人

マリオ「最悪だ」

ゲーム界のスターここに散る

プルルルルル

カトル「確保情報だ」

アコール先生「ジュラシックパーク付近にて・・・」

エスピオ「マリオ確保。」

ルイージ「ええ!? 兄さんが!!」

「おぐわ「マジでー? マリオが!」

トランクス「まだ驚きが隠せない、あの人が早くも捕まるなんて。」

全員驚きが隠せないようだ

「フイーナ、おのトコホヤシやない、エーフたんでものやんなこ
息切らしや。」

デュオ「ラフィーナか、さつきハンターに追われて全力で逃げたからゼエゼエ、すっげえ疲れてんだよゼエ。」

ラフィーナ「そうだつたんですの、所でミッショソに行く所なんですか
けど一緒行きません?」

デュオ「ああ、いいぜ俺もニッショーンに行くつもりだったからな。」

デュオ、ラフィーナと合流

アミティ「あ、あつたハンターマークナンバリング2を見つけたよ。

「

ソニック「よっしゃ、でかしたぜアミティ！」

2人はマークナンバーリング2を見つけた

ソニック「これが停止レバーか、良し引くぜ、セーの」

ガシャン

ナンバーリング2停止、残り5個

ソニックアミティ「「イエーイ」」

2人は息動向のハイタッチをした

残りの5つも停止出来るか

ハンターマーク残り5個

プルルルルルル

フォックス「ハンターマークナンバリング2停止残り5個。」

アイク「意外と早いな。」

ウルフ「だったら次消すのはナンバリング3か。」

マークは番号順に消さなければならない

レムレス「あれ、君はバーダックじゃないか。」

バーダック「おひ、レムレスじゃねえか、どうした。」

レムレス「ハンターマークを消しに行くとこだけど君も行くのかい。」

「

バーダック「当たり前だろハンターが増えちまつたら厄介だからよ。」

「

レムレス「じゃあ、僕が3番を消すから君は4番を消してくれないかな?。」

バーダック「お前が3番で俺が4番を消すか、よっしゃ引き受けたぜ。」

レムレス「ありがと。」

そして2人の後ろにハンターが

だが2人は気づいていない

そして

ハンター「！！」

見つかった

バーダック「あん？、おいヤベエぞハンターが来た！！」

レムレス「え！？嘘……」

そして2人は氣づき二手に分かれて逃げた

そしてハンターの標的は・・・

バーダック「おこない、マジかよ！？」

バーダックだ

バーダック「クソッタレが、このまま捕まつてたまるかよーーー！」

バーダックはスピードを上げ建物を利用して逃げた

ハンター「・・・」

うまく逃げ切れたようだ

バーダック「へッ、ぞまあ見やがれ」

レムレス「ふう、危なかつた、ん、あれはナンバリング3。」

レムレスは偶然ナンバリング3停止レバーを見つけた

レムレス「ラッキー、じゃあ早速レバーを引くか、せーの」

ガシャン

ハンターマークナンバリング3停止残り4個

プルルルルルル

アクセル「なにに、ナンバリング3停止残り4個

ドリ」「え?もう残り4個まで行ったの早っ。」

エックス「もうつも停止か。」

りんご」「この調子だとミッションクリアになりそうだね、ん?ねえ
エックス。」

エックス「どうした？りんご。」

りんご「あれ、パラガスじゃない？」

2人はパラガスを見かけた

パラガス「良し、ここなら見つからないな」

エックス「おい。」

パラガス「うお！？なんだエックスとりんごか。」

りんご「何やつてるの？。」

パラガス「実は隠れ場所を探していたのだ」

りんご「へえ、そなんだ。」

エックス「なあ、ミッションは行かないのか？」

パラガス「行かん」

רְאֵבָבָה וְעַמְּכָה.

パラガス「だつて、怖いんだもん。」

感想をお願いします

ハンターマーク残り4個

現在ハンターマーク残り4個

時間残り137分

130分経過まで残り7分前

メタナイト「ハンター放出まで残り7分、そしてハンターマークは
残り4個か」

時間とマークの残りを確認するメタナイト

そして彼の後ろにハンターが

まだメタナイトは気づいていない

ハンター「！！」

見つかった

メタナイト「ん、しまった、まさか後ろにいたとは。」

メタナイトはハンターに気づき逃げるが短距離で見つかってしまい
距離が縮まっていく、そして

ポン

メタナイト確保残り69人

メタナイト「不覚・・・」

プルルルル

ワリオ「お、メールだ・・・」

ゼロ「バック・トゥ・ザ・フューチャー至近にて・・・」

カービィ「メタナイト確保、え!/?嘘、メタナイトが。」

ゼロ「次に消す」ことが出来るのはナンバーリング4か。」

急いでナンバーリング4を探しているゼロ

その頃

エックス「チヨ、行きたくないもんて、何子供みたいな言い方して
んだよ氣落ちわりいな！！」

「りんご」「いい大人で親がそんなこと言つてビビつするのよ。」

パラガス「だつて、迂闊に動いたらハンターに見つかっただつてしま
うし。」

エックス「だからって、んな情けねえ言い方するなーー！」

情けないことを言うパラガスを怒鳴るエックス

そしてりんごはエックスの肩を叩いた

りんご「エックス、もう行こう。んな言い合いしたつて拉致がない
よ。」

エックス「そうだな、じゃあなパラガス。」

そして2人はパラガスと別れた

牢獄

メタナイト「くそー」

メタナイトは捨て台詞を吐きながら牢獄に入った

マリオ「お前も捕まつたのか。」

メタナイト「そいつマリオこそ以外だぞまさかお前が早く捕まつてしまつと。」

マリオ「逃げれそりだつたんだけど行き止まつて捕まつたんだよ。」

天の助「俺だつて最初に捕まつたんだぜ悔しい。」

感想をお願いします

ハンターマーク残り4個

ハンターマーク残り4個

現在135分ハンター放出まで残り5分

ゼロ「ナンバリング4 一体どこで、ん、あれはナンバリング4遂に見つけたぜ。」

ゼロはようやくハンターマークナンバリング4を見つけた

ゼロ「レバー……これが。」

ガシャン

ハンター マークナンバーリング4 停止残り3個

ゼロ「良し。」

プルルルル

ウルフ「あ、なんだ・・・」

ドンキー「ナンバーリング4 停止残り3個。」

「シャドウ、どこにいたま、今消せるナンバリングは5か、よじ5番を消すか。」

ナンバリング5を消して行くべシャドウ

クッパ「ハンターマークはビリロ・・・」

ハンターマークを消しに行くクッパ

だが彼の目の前にハンターが

そして

ハンター「・・・」

見つかつた

いく
クッパはハンターに気づいたがクッパの足は遅く当然距離が縮んで

そして

ポン

クツパ確保残り68人

クッパ「くそ」

迷惑大王ここに散る

プルルルル

悟飯「確保情報だ・・・」

ウイッヂ「スペース・ファンタジー・ザ・ライド付近にて・・・」

ナックルズ「クッパ確保残り68人。」

ルイージ「うわあ、クッパまで。」

ブロリー「あのダメ親父はどこにいるんだ？」

父パラガスをダメ呼ばわりする伝説の超サイヤ人

ブロリー「あのダメ親父はバカでどうしようもないほど情けなくおまけに変態だからな。」

ソニック「おつと、前にハンターがいたか、ここは隠れようぜアミティ。」

アミティ「うん。」

仲良しコンビの2人はハンターをいち早く見つけさうと隠れた

感想をお願いします

ハンターマーク残り3個

ソニック「まさか前にハンターがいたとはな、ん、あれ校長じやねえか。」

アミティ「しかもまだハンターに気づいていないよ早く気づいて。」

校長「逃げ延びてやるのじゃい。」

まだハンターに気づいていない

そして

ハンター「！！」

見つかった

校長「ん、ぎやあああああああああああああ、ハンターだ――――

校長は気づき逃げるがやはりハンターとの距離は縮んでゆく

そして

卷之三

ポン

校長確保残り67人

校長「……………」「チーン

失神状態と灰になつてゐる

ソーック「あゝ、あ結局捕まつた、しかも失神状態と同時に灰になつてるぜ。」

ブルルルルル

アクセル「確保情報がまた来たよ・・・」

「ドリ」「セサミーストリート4・ドムービー」ジック付近にて・・・

「

「

孫「校長先生が捕まつた。」

「

「

「

じーせん「や～いバー カバー カ（爆笑。」

ゲベ「あんなミジンコ以下知つたこいつちやない。」

シャドウ「これかナンバリング5は。」

シャドウはナンバリング5を見つけた

シャドウ「ならば、さつあと解除するか。」

ガシャン

ハンター マークナンバリング5 停止残り2個

シャドウ「フン

プルルルルル

ゼロ「お、ナンバリング5停止残り2個か。」

エックス「これであと2つか、ん？あれ校長か。」

りんご「言われてみれば、とにかく行ってみよう。」

2人は失神状態と灰になつた校長に近づいた

エックス「お、い校長どうした大丈夫か。・・・」

校長「・・・・・」
しかもリアル顔

りんご」「どう?」

エックス「駄目だな、完全に失神状態になつていて、おまけに灰になつてゐるまるで燃え尽きたかのようだ。」

りんご「やつなの、よほど捕まったのがショックだったみたいだね。」

「

果たして誰が逃げ切れるのか

感想をお願いします

ハンターマーク残り2個

132分

ハンター2体放出まであと2分

ヒイロ「ハンターマーク発見」

ナンバリング6を見つけたヒイロ

ヒイロ「レバーはこれか、」

ガシャン

ハンターマークナンバリング6停止残り1個

ヒイロ「任務完了」

プルルルル

リンク「お、ハンターマークナンバリング6停止」

ベクター「残り1個

サタン「もう残り1個か」

ピッコロ「ん、ハンター、ここは隠れるか

ハンターをいち早く見つけたピッコロ

そして

ハンター「・・・」

ピッコロ「良しもう行つたか」

うまくやり過ぎたようだ

クルーグ「自首は50分ぐらいになつたりするか。」

自首を考えるクルーグ

だが彼の後ろにハンターが

そして

ハンター「！！」

見つかった

クルーケ「ん、うわああああああああああああああああああああ、くるなー

!

クルーケは逃げるがハンターとの距離は縮んでいく
そして

ポン

クルーケ確保残り66人

クルーケ「この僕が・・・」

プルルルルル

ウルフ「ああ？、確保情報・・・」

トロワ「ジョーズ付近にて・・・」

リデル「クルーグ確保、クルーグさんが確保されちゃいました。」

アルル「ああ、クルーグが捕まつたよ

フランク「お、ハンターマーク発見。」

ナンバリングフを見つけたフランク

フランク「停止レバーはこれだな、よつと

ハンターマークナンバリングフ停止ミッション成功

ブルルルル

エスピオ「ハンター・マークナンバリング7停止結果」

シェゾ「ミッション成功」

サムス「ハンターの放出はエックスあんじうりんご、ソニック・ザ・ヘッジホッグアミティ、レムレス、ゼロ、シャドウ・ザ・ヘッジホッグ、ヒイロ・ユイ、フランク・ウエストの9名によつて阻止となつた。」

フューリ「さすがレムレス先輩だわ。」

デュオ「ヒイロの野郎やりやがつたな。」

アクセル「エックスとゼロもやつてくれたんだ。」

パラガス「ふう、やつとミッション成功か、私は別の場所で隠れる
か、あれ? ここどこ?」

なんとパラガスは迷子になつた

感想をお願いします

part-9 (前書き)

次のリッシュコンが始まる

ゲーム時間残り130分

現在の逃走者66人

そして新たなミッションが行われる

プルルルルル

ピーチ「ミッション、またミッションが来たわ・・・」

チャーミー「これより残り100分まで」・・・

五飛「自分以外の逃走者と出会い・・・」

ベジータ「携帯のカメラ機能で・・・」

ゼロ「2ショット写真を撮り・・・」

ドラゴ「送信しなければ・・・」

ゲベ「強制失格となる・・・」

トランクス「なおクリアした逃走者とクリアしていない逃走者との2ショットも可能だ。」

ミッション

2ショット写真を送信せよ

これより100分までに2ショット写真を撮り送信しなければ強制

失格となる

それを阻止することは逃走者同士の2シヨット写真を撮り送信をしなければならない

そしてクリアしている逃走者とクリアしていない逃走者との2シヨットも可能だ

ヒイロ「任務了解、他の逃走者を探し、2シヨット写真を撮り送信をする」

フランク「これは誰かを探さないとな〜」

エックス「て」とは今俺はりんごと一緒にいるからショットが撮れる」

りんご「ラッキー早く撮ろ」

エックス「せーの」

カシャ

エックス「送信」

エックス、あんどうりんご、ミッションクリア

ソニック&アミティ「せーの」

カシャ

ソニック「送信と」

ソニック・ザヘッジホッグ、アミティ、ミシショングリア

デュオ「よつと」

デュオ・マックス・ウェル、ラフィーナ、ミシショングリア

ラフィーナ「デュオさん、一旦別々に行動しません?」

デュオ「そうだな第一、ハンターに見つかる可能性が高いから、その方がいいかもな」

ラフィーナ「では」きげんよつ

デュオとラフィーナは別々に別れた

シェゾ「トランクスか！！」

トランクス「シェゾ？丁度良かつた写真と一緒に撮る人を探してたんだ」

シェゾ「ああ、こっちも丁度良かつた早く撮ろいぜ」

トランクス「ああ」

カシャ

トランクス「送信」

トランクス、シェゾ・ウイグイイ、ミッショングクリア

「ロボットアーティストが一度良かつた……」

「さあ、ロボットアーティストが」

「アーティストと一緒に真撮りで……」

「ああ、俺も一度ここと細つた所だからな」

「うわ、じあ撮るよ、ね～」

カシャ

「アーティスト送信」

「ケンタウロス、ゼロ、ナッシュンクリア

「ロボットアーティストが一度良かつた……」

「うわ、じあ撮るよ、ね～」

ゼロ「なあに、こっちも助かっただぜ」

現在クリアしている人数
10人
全員成功まであと56人
全員成功なるか

感想をお願いします

part - 10 (前書き)

ミッション2現在クリアしている逃走者は10人

シルバー「ヤベエ、早く誰か探して写真を撮つて送信しねえと強制失格になつてしまふ」

急いで他の逃走者を探しているシルバー

そこで

ドンッ！！

誰かとぶつかつた

シルバー「痛え〜、ごめん大丈夫か・・・て、アルルじゃねえか」

アルル「痛たたた、あ、シルバー」

シルバー「悪いな、ミッションクリアに急いでたからよ、ほれ」

シルバーは手を差し伸べアルルを立たせた

アルル「ありがとう、ボクも急いで他の人を探していたから、こつちも、」めんね「

シルバー「とりあえず、写真撮ろうぜ」

アルル「そうだね」

シルバー「よつと」

カシャ

シルバー「で、こいつで送信と」

シルバー・ザ・ヘッジホッグ、アルル・ナジャ、ミッショングクリア

シルバー「これでミッションクリアしたな」

だが2人の後ろにハンターが

だが2人はまだ気づいていないそして

ハンター「！」

見つかった

アルル「ん、シルバー、後ろにハンターが居るよ！！」

シルバー「マジかよ、ヤベエ！！」

2人は気付き逃げる、そして逃げる2人の前に

ワリオ「ちょ、何ハンター連れ込んでんだテメエらーー！」

ワリオが巻沿いに食らつた

そしてハンターの視界はワリオに変わったそして

ポン

ワリ才確保残り65人

ワリオ「シルバー、アルル、テメエら覚えてやがれ！！」

大激怒だ

プルルルルル

ウルフ「確保情報・・・」

デュオ「スヌーピー・プレイランド付近にて」

ベジータ「ワリオ確保」

シルバー「やつぱ捕まつたか」

アルル「ボクらのこと相当怒つてると思つよ」

シルバー「だな」

「フランク」お、リリニエルの仕事ですか

「お、フランクじゃねえか」

「フランク」早速だが写真を撮りつけ

「お、お、お、」

「フランク」行へや

カシャ

「フランク」で、これで送信

フランク・ウースト、孫悟空、ナッシュ・ションクリア

フランク「じゃあな

「ちいちゃんがいたんだって」「ああ、ああ

牢獄

ワリオ「くそったれ、シルバーとアルルめえ」

マリオ「お、お前も捕まつたのか」

メタナイト「どうやら話によればシルバーとアルルが追われてここで
ワリオが巻沿いになつたらしいぞ」

ワリオ「くっそ~」

天の助「ワリオの奴相当シルバーとアルルの事怒つてんじやん」

果たして全員クリアとなるか

感想をお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4244y/>

好きなアニメ・ゲームキャラクターで逃走中

2011年11月29日19時58分発行